

(様式第 10)

府病成 3119 号
平成 28 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
開設者名 遠山 正彌

大阪府立成人病センターの業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒558-8558 大阪市住吉区万代東3丁目1番56号
氏 名	地方独立行政法人 大阪府立病院機構

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立成人病センター

3 所在の場所

〒〒537-8511 大阪府大阪市東成区中道1丁目3番3号	電話 (06) 6972-1181
-------------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 消化器内科 2 呼吸器内科 3 血液内科 4 腫瘍内科 5 循環器内科 6 脳神経内科 7 内分泌代謝内科 8 感染症内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科・	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1. 消化器外科 2. 呼吸器外科 3. 乳腺外科 4. 心臓血管外科 5. 形成外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。
- (注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 2小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 5皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 8産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 16救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科・	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 2 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。
- (注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1. 臨床検査科 2. 病理診断科 3. リハビリテーション科 4. 腫瘍皮膚科
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
床	床	床	床	500床	500床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 28 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	131人	74人	180.5人	看護補助者	45人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	7人	0.3人	理学療法士	5人	臨床検査技師	65人
薬 剤 師	34人	6人	37.8人	作業療法士	2人	衛生検査技師	1人
保 健 師	1人	人	1.0人	視能訓練士	人	その他	人
助産師	人	人	人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	503人	20人	517.0人	臨床工学士	4人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	1人	8人	6.6人	栄 養 士	人	その他の技術員	4人
歯科衛生士	1人	人	1.0人	歯科技工士	人	事務職員	110人
管理栄養士	3人	4人	5.8人	診療放射線技師	46人	その他の職員	141人

- (注) 1 報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 28 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	12人	眼科専門医	人
外科専門医	26人	耳鼻咽喉科専門医	6人
精神科専門医	1人	放射線科専門医	12人
小児科専門医	人	脳神経外科専門医	2人
皮膚科専門医	人	整形外科専門医	5人
泌尿器科専門医	5人	麻酔科専門医	11人
産婦人科専門医	5人	救急科専門医	人
		合 計	85人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (松浦 成昭) 任命年月日 平成 26 年 4 月 1 日

なし

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	442.3人	0人	442.3人
1日当たり平均外来患者数	1086.5人	15.3人	1101.8人
1日当たり平均調剤数	入院 757.4 剤 外来 103.0 剤		
必要医師数	110人		
必要歯科医師数	1人		
必要薬剤師数	15人		
必要(准)看護師数	259人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備	概要	
集中治療室	180.06 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	8床	心電計 <input checked="" type="checkbox"/> 有・無
			人工呼吸装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	心細動除去装置 <input checked="" type="checkbox"/> 有・無
			その他の救急生體	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	ペースメーカー <input checked="" type="checkbox"/> 有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 92.40m ² [移動式の場合] 台数 4台		病床数	6床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 73.44m ² [共用室の場合] 共用する室名 (治験薬管理室)				
化学検査室	141.60m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動生化学免疫分析装置、全自動免疫測定装置 全自動血液凝固分析システム		
細菌検査室	48.00m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動細菌検査システム 全自動血液培養検査装置		
病理検査室	298.70m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 光学顕微鏡、バーチャルスライド投影装置 自動染色装置、自動免疫染色装置		
病理解剖室	50.66m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、冷蔵庫		
研究室	4267.93 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 質量分析装置、セルソーター 次世代DNAシーケンサー		
講義室	310.74m ²	鉄筋コンクリート	室数 1室	収容定員 167人	
図書室	272.95m ²	鉄筋コンクリート	室数 8室	蔵書数 35,000冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

1 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	98.7%	逆紹介率	181.4%
算出根拠	A：紹介患者の数	7,043人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	13,519人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	313人	
	D：初診の患者の数	7,452人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	早期膵癌発見のための膵精密超音波検査	取扱患者数	1319人
当該医療技術の概要 早期の膵癌を発見するために、消化管ガスの影響を減弱させることで、超音波の診断精度を向上させた検査			
医療技術名	広範な食道ESD	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 広範な病変を切除すると術後狭窄が必発であるが、当科では狭窄予防にステロイド剤の局所注入を行い、広範な食道癌の切除を可能にしている。			
医療技術名	大腸ESD	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 EMRでは切除が困難な大腸ポリープや大腸癌は従来外科手術が必要であった。しかし、最近そのようなポリープをESDできるようになった。ESDは技術的に困難であるが、当院では年間100件程度のESDを施行している。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
56	球脊髄性筋萎縮症		ベーチェット病	
57	筋萎縮性側索硬化症		特発性拡張型心筋症	36
58	脊髄性筋萎縮症		肥大型心筋症	25
59	原発性側索硬化症		拘束型心筋症	1
60	進行性核上性麻痺		再生不良性貧血	24
13	パーキンソン病	13	自己免疫性溶血性貧血	
62	大脳皮質基底核変性症		発作性夜間ヘモグロビン尿症	
63	ハンチントン病		特発性血小板減少性紫斑病	24
64	神経有棘赤血球症		血栓性血小板減少性紫斑病	
65	シャルコー・マリエー・トウス病		原発性免疫不全症候群	
7	重症筋無力症	7	IgA 腎症	
67	先天性筋無力症候群		多発性嚢胞腎	
3	多発性硬化症/視神経脊髄炎	3	黄色靱帯骨化症	
69	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー		後縦靱帯骨化症	7
70	封入体筋炎		広範脊柱管狭窄症	3
71	クロー・深瀬症候群		特発性大腿骨頭壊死症	1
72	多系統萎縮症		下垂体性ADH分泌異常症	
9	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	9	下垂体性TSH分泌亢進症	
74	ライソゾーム病		下垂体性PRL分泌亢進症	
75	副腎白質ジストロフィー		クッシング病	
76	ミトコンドリア病		下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
2	もよもや病	2	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	
78	プリオン病		下垂体前葉機能低下症	1
79	亜急性硬化性全脳炎		家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
80	進行性多巣性白質脳症		甲状腺ホルモン不応症	
81	HTLV-1関連脊髄症		先天性副腎皮質酵素欠損症	
82	特発性基底核石灰化症		先天性副腎低形成症	
4	全身性アミロイドーシス	4	アジソン病	
84	ウルリッヒ病		サルコイドーシス	1
85	遠位型ミオパチー		特発性間質性肺炎	2
86	ベスレムミオパチー		肺動脈性肺高血圧症	
87	自己食空胞性ミオパチー		肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
88	シュワルツ・ヤンベル症候群		慢性血栓塞栓性肺高血圧症	
89	神経線維腫症		リンパ脈管筋腫症	
90	天疱瘡		網膜色素変性症	2
91	表皮水疱症		パッド・キアリ症候群	
92	膿疱性乾癬(汎発型)		特発性門脈圧亢進症	
93	スティーヴンス・ジョンソン症候群		原発性胆汁性肝硬変	16
94	中毒性表皮壊死症		原発性硬化性胆管炎	
3	高安動脈炎	3	自己免疫性肝炎	
96	巨細胞性動脈炎		クローン病	
97	結節性多発動脈炎		潰瘍性大腸炎	13
98	顕微鏡的多発血管炎		好酸球性消化管疾患	
99	多発血管炎性肉芽腫症		慢性特発性偽性腸閉塞症	
100	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症		巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
101	悪性関節リウマチ		腸管神経節細胞減少症	
1	バージャー病	1	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
102	原発性抗リン脂質抗体症候群		CFC症候群	
1	全身性エリテマトーデス	1	コステロ症候群	
104	皮膚筋炎/多発性筋炎	1	チャージ症候群	
105	全身性強皮症		クリオピリン関連周期熱症候群	
106	混合性結合組織病		全身型若年性特発性関節炎	
107	シェーグレン症候群		TNF受容体関連周期性症候群	
108	成人スチル病		非典型溶血性尿毒症症候群	
109	再発性多発軟骨炎		ブラウ症候群	
110				

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	161		家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	162		類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	
113	筋ジストロフィー	163		特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	164		眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺	165		肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎	166		弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	167		マルファン症候群	
118	脊髄髄膜瘤	168		エーラス・ダンロス症候群	
119	アイザックス症候群	169		メンケス病	
120	遺伝性ジストニア	170		オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症	171		ウィルソン病	
122	脳表ヘモジデリン沈着症	172		低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	173		VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	174		那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	175		ウィーバー症候群	
126	ベリー症候群	176		コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症	177		有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	178		モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	179		ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症	180		ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病	181		クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺	182		アペール症候群	
133	メビウス症候群	183		ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	184		アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群	185		コフィン・シリシ症候群	
136	片側巨脳症	186		ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成	187		歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症	188		多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症	189		無脾症候群	
140	ドラベ症候群	190		鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	191		ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠伸てんかん	192		コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	193		ブラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群	194		ソトス症候群	
145	ウエスト症候群	195		ヌーナン症候群	
146	大田原症候群	196		ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症	197		1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	198		4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	199		5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群	200		第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎	201		アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群	202		スミス・マジニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	203		22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	204		エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群	205		脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群	206		脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群	207		総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	208		修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症	209		完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬	210		単心室症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症		263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モフト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎		268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群		270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	
224	紫斑病性腎炎		272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)		274	骨形成不全症	
227	オスラー病		275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球癆	
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クローンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横膈膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 特定機能病院入院基本料(7:1)	・
・ 臨床研修病院入院診療加算	・
・ 診療録管理体制加算1	・
・ 急性期看護補助体制加算(50:1)	・
・ 地域加算 2級地域	・
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算1	・
・ 緩和ケア診療加算	・
・ がん診療連携拠点病院加算	・
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染防止対策加算1	・
・ 感染防止対策地域連携加算	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ 退院調整加算	・
・ 病棟薬剤業務実施加算	・
・ データ提出加算2	・
・ 特定集中治療室管理料3	・
・ ハイケアユニット入院医療管理料1	・
・ 入院時食事療養(I)	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 糖尿病合併症管理料	・ 胃瘻造設術
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 腹腔鏡下肝切除術
・ がん患者指導管理料1・2・3	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 外来緩和ケア管理料	・ 腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・ 移植後患者指導管理料(造血幹移植後)	・ 腹腔鏡下小切開腎部分切除術
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 腹腔鏡下小切開腎摘出術
・ 外来リハビリテーション診療料	・ 腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・ 外来放射線照射診療料	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ ニコチン依存症管理料	・ 腹腔鏡下小切前立腺悪性腫瘍手術
・ がん治療連携計画策定料1	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・ がん治療連携管理料	・ 輸血管理料Ⅱ
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 人工肛門・人工膀胱造設術処置加算
・ 薬剤管理指導料	・ 内視鏡手術用支援機器加算
・ 医療機器安全管理料1・2	・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・ 造血器腫瘍遺伝子検査	・ 病理診断管理加算2
・ HPV核酸検出	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則第5号及び第6号に掲げる手術
・ 検体検査管理加算(Ⅰ)(Ⅳ)	・ 麻酔管理料(Ⅰ)(Ⅱ)
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ 放射線治療専任加算
・ 時間内歩行試験	・ 外来放射線治療加算
・ 神経学的検査	・ 高エネルギー放射線治療
・ センチネルリンパ節生検	・ 強度変調放射線治療(IMRT)
・ CT透視下気管支鏡検査加算	・ 一回線量増加加算
・ 画像診断管理加算1・2	・ 画像誘導放射線治療(IGRT)加算
・ CT撮影	・ 体外照射呼吸性移動対策加算
・ MRI撮影	・ 直線加速器による定位放射線治療
・ 冠動脈CT撮影加算	・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・ 心臓MRI撮影加算	・ う蝕菌無痛的窩洞形成加算
・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 手術時歯根面レーザー応用加算

・ 外来化学療法加算1	
・ 無菌製剤処理料1・2	
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅱ	
・ 運動器リハビリテーション料Ⅰ	
・ 呼吸器リハビリテーション料Ⅰ	
・ がん患者リハビリテーション料	
・ 処置の休日加算1	
・ 処置の時間外加算1	
・ 処置の深夜加算1	
・ 手術の休日加算1	
・ 手術の時間外加算1	
・ 手術の深夜加算1	
・ 組織拡張器による再建術(一連につき)	
・ 頭蓋内腫瘍摘出術 脳腫瘍マッピング加算	
・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術含む)及び脳刺激装置交換術	
・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	
・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	
・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1・2	
・ 経皮的冠動脈形成術	
・ 経皮的冠動脈ステント留置術	
・ ペースメーカー移植術	
・ ペースメーカー交換術	
・ 大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ 内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・ 抗悪性腫瘍剤感受性検査(HDRA法又はCD-DS T法)	・
・ 超音波骨折治療法	・
・ 腹腔鏡下子宮体がん根治手術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月6回程度
剖検の状況	剖検症例数 19例 / 剖検率 11.3 %

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元又は委託元	補助元又は委託元
マウスの個体発生前における非アポトーシス型プログラム細胞死の網羅的遺伝学的解析	辻本 賀英	研究所長	1,500,000	補 委	文部科学省
「iPs/アニマルモデル」(患者腫瘍移植モデルとex vivo培養間のシヤトルシステムによる革新的な臨床効果評価技術の開発)	井上 正宏	研究所生化学部門	18,181,819	補 委	AMED
腫瘍内低酸素応答を利用した癌悪性化制御法の開発	井上 正宏	研究所生化学部門	13,100,000	補 委	文部科学省
国際ネットワークを基盤とする酸素生物学の推進	井上 正宏	研究所生化学部門	130,000	補 委	文部科学省
先天性GPI欠損症の診療ガイドラインの整備と疾患マーカーの探索	井上 徳光	研究所主要免疫学部門	2,300,000	補 委	AMED
先天性GPI欠損症の疾患概念の確立と診断基準の制定:発達障害・てんかんを主症状とする新しい疾患	井上 徳光	研究所主要免疫学部門	300,000	補 委	厚生労働省
転移先臓器を標的とした骨軟部腫瘍の新規治療法の開発	伊藤 和幸	研究所生物学部門	1,400,000	補 委	文部科学省
糖鎖腫瘍マーカーの探索とその評価	宮本 泰豪	研究所分子生物学部門	1,600,000	補 委	文部科学省
サイトカイン遺伝子の導入による癌微小環境の改変がもたらす免疫療法増強効果の検討	赤澤 隆	研究所主要免疫学部門	50,000	補 委	文部科学省
初代3次元培養ヒト大腸癌における癌細胞の極性転換機構とがん転移への関与の解明	奥山 裕照	研究所生化学部門	1,300,000	補 委	文部科学省
新規がん組織培養法を用いた麻酔薬のがん組織表現型と遺伝子型への影響の検討	奥山 裕照	研究所生化学部門	250,000	補 委	文部科学省
新しい癌細胞初代培養系(CTOS法)を用いた癌細胞の休眠状態と放射線感受性の検討	遠藤 洋子	研究所生化学部門	974,573	補 委	文部科学省
骨軟部腫瘍転移における自然免疫応答回避の分子メカニズム	笹川 覚	研究所生物学部門	1,500,000	補 委	文部科学省
家族性及び同胞癌症例ゲノム解析による遺伝性癌原因遺伝子の同定とその応用	久木田 洋児	研究所疾患分子遺伝学部門	1,200,000	補 委	文部科学省
微量酸性糖を標的とした腫瘍マーカーの開発	岡本 三紀	研究所分子生物学部門	1,400,000	補 委	文部科学省
グレルン投与による高齢者食道癌手術の安全性向上に関するランダム化第2相試験	矢野 雅彦	副院長	900,000	補 委	AMED
臨床病期I/II/III食道癌(T4を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第III相試験	矢野 雅彦	副院長	1,000,000	補 委	AMED

計 17

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
難治性食道がんの治療方針決定に資する技術開発に関する研究	石原 立	消化器内科	300,000	補 委	AMED
高度腹水を伴うまたは経口摂取不能の腹膜転移を有する胃癌に対する5-FU/1-LV療法 vs FLTAX療法のランダム化第Ⅱ/Ⅲ相比較試験	杉本 直俊	臨床腫瘍科	500,000	補 委	AMED
(切除可能進行胃癌に対する網膜切除の意義に関する研究)症例登録とプロトコル治療実施	藤原 義之	消化器外科	700,000	補 委	AMED
治験の実施に関する研究 [5ALA]	藤原 義之	消化器外科	439,000	補 委	AMED
オートファジー制御による食道癌化学療法抵抗性克服の検討	宮田 博志	消化器外科	1,200,000	補 委	文部科学省
グレリンによる手術侵襲軽減のメカニズムの解明と臨床応用へ向けた投与法の最適化	宮田 博志	消化器外科	100,000	補 委	文部科学省
高難度手術およびハイリスク症例の手術成績向上を目指したグレリン支持療法の開発	宮田 博志	消化器外科	100,000	補 委	文部科学省
側方骨盤リンパ節転移陽性の難治性下部直腸癌の予後改善を目指した治療法に関する研究	安井 昌義	消化器外科	1,000,000	補 委	AMED
プロトコルの実施・問題点の検討・症例集積	安井 昌義	消化器外科	750,000	補 委	AMED
大腸がん肝転移切除例に適した新規抗がん剤を用いた術後補助化学療法の研究	安井 昌義	消化器外科	750,000	補 委	AMED
脾液中エクソソーム解析による脾臓に対する術前放射線併用化学療法の効果予測の検討	高橋 秀典	消化器外科	1,356,469	補 委	文部科学省
胆道癌の主要巣と進展・転移部における腫瘍進展因子と治療抵抗因子の相違に関する解析	小林 省吾	消化器外科	1,500,000	補 委	文部科学省
癌細胞由来エクソソームによる腫瘍血管新生および浸潤転移機構の解明	小林 省吾	消化器外科	100,000	補 委	文部科学省
脾癌幹細胞におけるc-mycネットワークの発現意義の解明と新規治療標的分子の探索	秋田 裕史	消化器外科	1,600,000	補 委	文部科学省
臨床脾臓移植の成績を改善するための次世代ストラテジーを用いた包括的研究	秋田 裕史	消化器外科	200,000	補 委	文部科学省
脾癌の癌細胞-癌間質におけるmicroRNA相互作用の解明と薬剤耐性克服法の構築	秋田 裕史	消化器外科	200,000	補 委	文部科学省
患者組織由来脂肪幹細胞の臨床応用に向けた開発研究	三吉 範克	消化器外科	2,600,000	補 委	文部科学省

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

小計 17

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	荒木 信人	整形外科	500,000	補 委	AMED
骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究	荒木 信人	整形外科	300,000	補 委	国立がん研究センター
滑膜肉腫特異的融合遺伝子のin vivo機能解析及び創薬ターゲットの探索 (阪大、濱田班)	王谷 英達	整形外科	400,000	補 委	文部科学省
「希少がん・小児がん」(軟部肉腫)に対するゲノム解析による新規治療標的分子の探索	橋本 伸之	整形外科	700,000	補 委	AMED
膠芽腫におけるmicrogliaの役割とそのin vivo MRイメージング	木下 学	脳神経外科	1,200,000	補 委	文部科学省
悪性神経膠腫に対する、蛍光・PET dual tracerの開発	木下 学	脳神経外科	150,000	補 委	文部科学省
膵がんにおける臨床試験の実施	井岡 達也	消化器検診科	140,000	補 委	AMED
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	西村 和郎	泌尿器科	230,000	補 委	AMED
膵臓癌に対する術前化学放射線療法の高精度化	手島 昭樹	放射線治療科	6,100,000	補 委	文部科学省
全国的な放射線治療情報の収集、解析、公開の為のweb型データベースシステムの構築	手島 昭樹	放射線治療科	100,000	補 委	文部科学省
がん診療科データベースとJapanese National Cancer Database (JNCDB)の運用と他がん登録との連携	手島 昭樹	放射線治療科	5,192,000	補 委	厚生労働省
バイオバンクの構築と臨床情報データベース化	西澤 恭子	臨床検査科	15,420,000	補 委	AMED
STAT3シグナルにおけるVCP,UBL4A(GdX)の関与の検討	富田 裕彦	病理・細胞診断科	1,300,000	補 委	文部科学省
多施設における原発性骨腫瘍の臨床病理学的検討	富田 裕彦	病理・細胞診断科	100,000	補 委	文部科学省
がん患者に対する血管新生阻害薬による心毒性の評価および分子機構の解明	塩山 涉	循環器内科	150,000	補 委	文部科学省
術後生存率に及ぼす手術時年齢の影響からみた高齢者に対する手術治療の適否	宮代 勲	がん予防情報センター	1,400,000	補 委	文部科学省
都道府県がん登録データの全国集計と既存がん統計の資料の活用によるがん及びがん診療動向把握の研究	中田 佳世	がん予防情報センター	250,000	補 委	厚生労働省
医療の質と医療費と原価との関係の解明-医療の可視化と効率化の推進を目指して	森島 敏隆	がん予防情報センター	1,010,603	補 委	文部科学省

小計 18

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	別紙参照			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

No.	著者	共著者(複数の場合は、「,」 「,」で続ける)	所属	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	西暦	月	特定機能 病院 承認要件 対応論文	和文 or 英文
1	Hamada K	Takeuchi Y, Tamai N	消化管内科	A case of sessile serrated adenoma/polyp observed with autofluorescence imaging	Digestive Endoscopy	lead of print]				2016	2	○	英文
2	Hanaoka N	Ishihara R, Matsuura N, Uedo N, Takeuchi Y, Higashino K, Yamashina T, Aoi K, Iishi H, Ishihara R, Takeuchi Y, Suzuki M, Otozai S, Kida K, Yoshii T, Fujii T, Yoshino K, Sugawa T, Kitamura K, Kanemura R, Koike R, Uedo N, Higashino K, Akasaka T, Yamashina T, Kanesaka T, Matsuura N, Aoi K, Yamasaki Y, Hamada K, Ishihara R, Takeuchi Y, Higashino K, Akasaka T, Kanesaka T, Matsuura N, Yamasaki Y, Hamada K, Iishi Takeuchi Y, Hanaoka N, Matsuura N, Hamada K, Uedo N, Ishihara R, Shingai T, Ohue M, Tomita Y, Iishi H, Michida T, Kusakabe A, Sakai A, Hibino C, Kato M, Tokuda Y, Kawai T, Hamano M, Chiba M, Maeda K, Yamamoto K, Naito M, Ito T, Yoshino K, Kubota S, Okuyama H, Endo H, Ueda Y, Kimura T, Kimura T, Kamiura S, Inoue M	消化管内科	Esophageal EUS by filling water-soluble lubricating jelly for diagnosis of depth of invasion in superficial	Gastrointest Endosc	82	1	164	165	2015	7	○	英文
3	Hanaoka N		消化管内科	Endoscopic submucosal dissection as minimally invasive treatment for superficial pharyngeal cancer: a phase II study (with video).	Gastrointest Endosc	82	6	1002	1008	2015	12	○	英文
4	Hanaoka N		消化管内科	Refractory strictures despite steroid injection after esophageal endoscopic resection. EIO, 2016	Endoscopy International Open			E1	E6	2016	1	○	英文
5	Ito T		消化管内科	Ten-millimeter advanced transverse colon cancer accompanied by a serrated adenoma and/or polyp	Gastrointest Endosc.	82	2	419	420	2015	8	○	英文
6	Kato M		消化管内科	Safety and short-term outcomes of endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer in elderly patients	Endoscopy International Open	concept						○	英文
7	Kiyohara Y		消化管内科	Drug screenign and grouping by sensitivity with a panel of primary cultured cancer spheroids derived from endometrial cancer	Cancer Sci	accept				2016	2	○	英文
8	Matsuura N	Takeuchi Y, Fujii M, Yasui M, Ishihara R, Tomita Y, Iishi H	消化管内科	Endoscopic appendectomy showing an intramucosal carcinoma.	Gastrointest Endosc.	Epub ahead of print				2016	2	○	英文
9	Matsuura N	Hanaoka N, Ishihara R, Sugimura K, Motoori M, Miyata H, Yano M, Masao Hanafusa, Hiromitsu Kanzaki, Takashi Ohta, Noboru Hanaoka, Sachiko Yamamoto, Koji Higashino, Yasuhiko Tomita, Noriya Uedo, Ryu Ishihara, Hiroyasu	消化管内科	Polyglycolic acid sheets for closure of refractory esophago-pulmonary fistula after esophagectomy	Endoscopy	48		78	79	2016	3	○	英文
10	Takeuchi Y		消化管内科	An alternative option for "resect and discard" strategy, using magnifying narrow-band imaging: a prospective "proof-of-principle" study	J Gastroenterol.	50	10	1017	1026	2015	10	○	英文

No.	著者	所属	題名	雑誌名	巻号	開始頁	終了頁	西暦	月	特定機能病院承認要件対象論文	和文 or 英文
			共著者(複数の場合は、F、Jで続ける)								
11	Takeuchi Y	消化管内科	Yamashina T, Matsuura N, Ito T, Fujii M, Nagai K, Matsui F, Akasaka T, Hanaoka N, Higashino K, Iishi H, Ishihara R, Henrik Thorlacius, Uedo N, Takeuchi Y, Akita H, Takada R, Ishihara R, Takami T, Iishi H	World J Gastrointest Endosc	7	1250	1256	2015	11	○	英文
12	Tonai Y	消化管内科	Gotoda T, Yoshinaga S, Tanuma T, Morita Y, Doyama H, Aso A, Hirasawa T, Yano T, Uchita N, Hooi Ho GS, Hsieh PH	Endoscopy	48	E97	98	2016	3	○	英文
13	Uedo N	消化管内科	Differences in routine esophago-gastrodiendoscopy between Japanese and international facilities: a questionnaire survey	Digestive Endoscopy	Epub ahead of print			2016	2	○	英文
14	Yamasaki Y	消化管内科	A novel traction method using an endoclip attached to a nylon string during colonic endoscopic submucosal dissection.	Endoscopy	47	Suppl E238	E239	2015	6	○	英文
15	Yamasaki Y	消化管内科	Takeuchi Y, Uedo N, Kato M, Hamada K, Aoi K, Tonai Y, Matsuura N, Kanesaka T, Yamashina T, Akasaka T, Hanaoka N, Koji Higashino K, Ishihara R, and Iishi H	Endoscopy International Open	4	1	E51	2016	1	○	英文
16	Yamasaki Y	消化管内科	Takeuchi Y, Uedo N, Kato M, Hamada K, Tonai Y, Matsuura N, Kanesaka T, Akasaka T, Hanaoka N, Higashino K, Ishihara R, and Takada R, Uedo N, Akasaka T, Hanaoka N, Takeuchi Y, Higashino K, Ioka T, Ishihara R, Teshima T, Nishiyama K, Iishi H	Digestive Diseases and Sciences	Epub ahead			2016	1	○	英文
17	Yamashina T	消化管内科	Feasibility of Simple Traction Technique for Rectal Endoscopic submucosal dissection	Annals of Gastroenterology	29	1	3	2016	1	○	英文
18	Yamashina T	消化管内科	Prospective small bowel mucosal assessment immediately after chemoradiotherapy of unresectable locally advanced pancreatic cancer using capsule endoscopy: a case series	J Gastroenterol Hepatol.	31	3	615	2016	3	○	英文
19	Fukutake N	肝胆膵内科	Features of electrocoagulation syndrome after endoscopic submucosal dissection for colorectal neoplasm.	PLoS One	10	7	on line	2015	7	○	英文
20	Imanaka K	肝胆膵内科	A Novel Multivariate Index for Pancreatic Cancer Detection Based On the Plasma Free Amino Acid Profile. Impact of branched-chain amino acid supplementation on the survival in patients with advanced hepatocellular carcinoma treated with sorafenib: a multicenter retrospective cohort study	Hepatol Res	in press			2015	12	○	英文

No.	著者	共著者(複製の場合は、『』 『』で続ける)	所属	題名	雑誌名	巻号	開始頁	終了頁	西暦	月	特定機能 病院 承認要件 対象論文	和文 or 英文
21	Sakakibara M	Ohkawa K, Imanaka K, Miyazaki M, Nawa T, Kimura H, Abe Y, Katayama K, Sueyoshi H, Takada R, Fukutake N, Katayama K, Ashida R, Ioka T, Takenaka A, Nagata S, Tomita Y	肝胆臓内科	Quick and stable parallel puncture of hepatic tumors using a double-barreled needle direction system for ultrasound-guided hilar	Hepatol Res	Ep ub ah ea	2016	2	2016	2	○	英文
22	Uehara H	Fukutake N, Katayama K, Ashida R, Ioka T, Takenaka A, Nagata S, Tomita Y	肝胆臓内科	Optimal number of needle passes in endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration for pancreatic lesions.	Pnaceareatology	15	4	392	2015	7	○	英文
23	Imamura F	Okamoto N, Inoue T, Uchida J, Nishino K, Kimura M, Kumagai T, Okami J	呼吸器内科	Pneumothorax triggered by the combination of gefitinib and amrubicin and treated with endobronchial silicone spigots	Respiratory Medicine Case Reports	15	42	44	2015	5	○	英文
24	Junji U	Imamura F, Kukita Y, Oba S, Kumagai T, Nishino K, Inoue T, Kimura M, Kato K	呼吸器内科	Dynamics of circulating tumor DNA represented by the activating and resistant mutations in the EGFR-TKI treatment	Cancer Science	doi: 10.1111/cas.12860			2015	12	○	英文
25	Kumagai T	Tomita Y, Inoue T, Uchida J, Nishino K, Imamura F	呼吸器内科	Pleural sarcoidosis diagnosed on the basis of an increased CD4/CD8 lymphocyte ratio in pleural effusion fluid: a case report	Journal of medical case reports	9	170		2015	8	○	英文
26	Nishino K	Imamura F, Kumagai T, Katakami N, Hata A, Okuda C, Urata Y, Hattori Y, Tachihara M, Yokota S, Nishimura T, Kaneda T, Satouchi M, Morita S, Negoro S	呼吸器内科	A randomized phase II study of bevacizumab in combination with docetaxel or S-1 in patients with non-squamous non-small-cell lung cancer previously treated with platinum based chemotherapy (HANSHIN Oncology Group 0110)	Lung Cancer	89	2	146	2015	8	○	英文
27	Uchida J	Kato K, Kukita Y, Kumagai T, Nishino K, Daga H, Nagatomo I, Inoue T, Kimura M, Oba S, Ito Y, Takeda K, Imamura F, Sakamoto T, Nakai K, Tanizawa M, Okabe T, Hoshikawa N, Kohatada M, Kitagawa F, Hanya R, Kotani M	呼吸器内科	Diagnostic Accuracy of Noninvasive Genotyping of EGFR in Lung Cancer Patients by Deep Sequencing of Plasma Cell-Free DNA	Clinical Chemistry	61	9	1191	2015	9	○	英文
28	Yagi T	Yagi T, Okuno J, Kittaka N, Ishitobi M, Sugimoto N, Nakayama T, Tamaki Y, Imamura F	臨床腫瘍科	A Questionnaire-based Assessment of the Anxiety, Satisfaction and Discomfort Experienced by Japanese Cancer Patients during the Use of Central Venous Ports	Internal Medicine	accept					○	英文
29	Yoshinami T	Efficacy and safety of re-induction therapy with bevacizumab and paclitaxel for metastatic breast cancer	臨床腫瘍科	Breast Cancer	line						○	英文
30	Akita H	Takahashi H, Gotoh K, Kobayashi S, Sugimura K, Miyoshi N, Motoori M, Noura S, Fujiwara Y, Oue M, Yano M, Sakon M, Ishikawa O	消化器外科	Closure method for thick pancreas stump after distal pancreatectomy: soft coagulation and polyglycolic acid felt with fibrin glue.	Langenbecks Arch Surg	##	843	848	2015	10	○	英文
31	Fujino S.	Miyoshi N, Ohue M, Noura S, Fujiwara Y, Yano M, Higashiyama M, Sakon M	消化器外科	Vacuum-assisted closure for open perineal wound after abdominoperineal resection.	Int J Surg Case Rep	11	87	90	2015	4	○	英文

No.	著者	共著者(複数の場合は、[、]で続ける)	所属	題名	雑誌名	巻号	開始頁	終了頁	西暦	月	特定機能病院承認対象論文	和文 or 英文
32	Fujino S	Miyoshi N, Ohue M, Noura S, Fukata T, Yagi T, Fujiwara Y, Yano M	消化器外科	Use of Vacuum-assisted closure in management of open abdominal wound with multiple enterocutaneous fistulae during chemotherapy: a case report	International Journal of Surgery Case Reports	17 17	112	116	2015	11	○	英文
33	Fujiwara Y	Omori T, Demura K, Miyata H, Sugimura K, Ohue M, Kobayashi S, Takahashi H, Doki Y, Factor VM, Andersen JB, Durkin ME, Tomokuni A, Marquardt JU, Matter HS, Hoang T, Conner EA, Thorgeirsson SS	消化器外科	A Multidisciplinary Approach for Advanced Gastric Cancer with Paraaortic Lymph Node Metastasis.	Anticancer Res	35 12	6739	45	2015	12	○	英文
34	Kaji K		消化器外科	DNMT1 is a Required Genomic Regulator for Murine Liver Histogenesis and Regeneration.	Hepatology				2016	3	○	英文
35	Kishi K	Fujiwara Y, Yano M, Motoori M, Sugimura K, Takahashi H, Ohue M, Sakon M	消化器外科	Usefulness of diagnostic laparoscopy with 5-aminolevulinic acid (ALA)-mediated photodynamic diagnosis for the detection of peritoneal micrometastasis in advanced gastric cancer after chemotherapy.	Surg Today				2016	3	○	英文
36	Kobayashi S	Tomokuni A, Gotoh K, Takahashi H, Akita H, Marubashi S, Yamada T, Teshima T, Nishiyama K, Yano M, Ohigashi H, Ishikawa O, Sakon M	消化器外科	Evaluation of the safety and pathological effects of neoadjuvant full-dose gemcitabine combination radiation therapy in patients with biliary tract cancer.	Journal of Clinical Oncology	33 6	191-1198		2015	12	○	英文
37	Kobayashi S	Takeda Y, Nakahira S, Tsujie M, Shimizu J, Miyamoto A, Eguchi H, Nagano H, Doki Y, Mori M	消化器外科	Fibrin Sealant with Polyglycolic Acid Felt vs Fibrinogen-Based Collagen Fleece at the Liver Cut Surface for Prevention of Postoperative Bile Leakage and Hemorrhage: A Prospective, Randomized, Controlled Study.	J Am Coll Surg	## 1	59	64	2016	1	○	英文
38	Kobayashi S	Gotoh K, Takahashi H, Akita H, Marubashi S, Yamada T, Teshima T, Nishiyama K, Yano M, Ohigashi H, Ishikawa O, Sakon M	消化器外科	Clinicopathological Features of Surgically-resected Biliary Tract Cancer Following Chemo-radiation Therapy	Anticancer Research	36	335	342	2016	1	○	英文
39	Marubashi S	Gotoh K, Akita H, Takahashi H, Ito Y, Yano M, Ishikawa O, Sakon M	消化器外科	Anatomical versus non-anatomical resection for hepatocellular carcinoma.	Br J Surg	##	776	784	2015	6	○	英文
40	Marubashi S	Kishi K, Noura S, Fujiwara Y, Ohue M, Nakazawa T, Nakanishi K, Ito Y, Yano M, Ishikawa O, Sakon M	消化器外科	Analysis of Recurrence Patterns After Anatomical or Non-anatomical Resection for Hepatocellular Carcinoma.	Ann Surg Oncol	22 7	2243	2252	2015	7	○	英文

No.	著者	共著者(複数の場合は、「,」 「,」で続ける)	所属	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	西暦	月	特定機能 病院 承認要件 対象論文	和文 or 英文
41	Marubashi S	Gotoh K, Akita H, Takahashi H, Sugimura K, Miyoshi N, Motoori M, Kishi K, Noura S, Fujiwara Y, Ohue M, Yano M, Ishikawa O, Sakon M, Fujiwara Y, Kishi K, Okami J, Sugimura K, Motoori M, Miyoshi N, Noura S, Ohue M, Gotoh K, Marubashi S, Akita H, Takahashi H, Sakon M, Yano M	消化器外科	Navigation Guidance Using Polyglycolic Acid Felt in Pure Laparoscopic Partial Hepatectomy.	Surg Innov	22	4	355	359	2015	8	○	英文
42	Matsuda Y	Hanaoka N, Ishihara R, Sugimura K, Motoori M, Miyata H, Yano M, Polyglycolic acid sheets for closure of refractory esophago-pulmonary fistula after esophagectomy Yamasaki M, Makino T, Miyazaki Y, Takahashi T, Kurokawa Y, Nakajima K, Takiguchi S, Mori M, Doki Y	消化器外科	Surgical resection of solitary omental metastasis from non- small cell lung cancer: Report of three cases.	Oncol Lett.	11	1	563	567	2016	1	○	英文
43	Matsuura N	Yamasaki M, Makino T, Miyazaki Y, Takahashi T, Kurokawa Y, Nakajima K, Takiguchi S, Mori M, Doki Y	消化器外科	Polyglycolic acid sheets for closure of refractory esophago-pulmonary fistula after esophagectomy.	Endoscopy	48	Suppl 1	E78	E79	2016		○	英文
44	Miyata H	Yamasaki M, Miyazaki Y, Takahashi T, Kurokawa Y, Nakajima K, Takiguchi S, Mori M, Doki Y	消化器外科	Therapeutic value of lymph node dissection for esophageal squamous cell carcinoma after neoadjuvant chemotherapy.	J Surg Oncol	##	1	60	65	2015	7	○	英文
45	Miyata H	Yamasaki M, Makino T, Miyazaki Y, Takahashi T, Kurokawa Y, Nakajima K, Takiguchi S, Mori M, Doki Y	消化器外科	Clinical Importance of Supraclavicular Lymph Node Metastasis After Neoadjuvant Chemotherapy for Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	Ann Surg	##	2	280	285	2015	8	○	英文
46	Miyata H	Tatsumi M, Miyazaki Y, Takahashi T, Kurokawa Y, Takiguchi S, Mori M, Doki Y	消化器外科	Clinical Outcome of Esophagectomy in Elderly Patients With and Without Neoadjuvant Therapy for Thoracic Esophageal Cancer.	Ann Surg Oncol.	3	Suppl 3	750	757	2015		○	英文
47	Miyata H	Ohue M, Shingai T, Noura N, Sugimura K, Akita H, Gotoh K, Motoori M, Takahashi H, Kishi K, Okami J, Marubashi S, Fujiwara Y, Higashiyama M, Yano M	消化器外科	Impact of number of [(18) F]fluorodeoxyglucose-PET- positive lymph nodes on survival of patients receiving neoadjuvant chemotherapy and surgery for esophageal cancer.	Br J Surg	##		97	104	2016	1	○	英文
48	Miyoshi N		消化器外科	Clinicopathological characteristics and prognosis of stage IV colorectal cancer: the beneficial effect of curative resection for synchronous liver/lung metastasis.	Molecular and Clinical Oncology	3	3	1093	1098	2015	7	○	英文

No.	著者	共著者(複数の場合は、『』 『』で続ける)	所属	題名	雑誌名	巻号	開始頁	終了頁	西暦	月	特定機能 病院 承認案件 対象論文	和文 of 英文
49	Motoori M	Yano M, Tanaka K, Kishi K, Takahashi H, Inoue M, Saito T, Sugimura K, Fujiwara Y, Ishikawa O, Sakon M	消化器外科	Intraoperative photodynamic diagnosis of lymph node metastasis in esophageal cancer patients using 5-aminolevulinic acid.	Oncol Let	10	3035	3039	2015	11	○	英文
50	Motoori M	Yano M, Miyata H, Sugimura K, Saito T, Omori T, Fujiwara Y, Miyoshi N, Akita H, Gotoh K, Takahashi H, Kobayashi S, Noura S, Ohue M, Asakara T, Nomoto K, Ishikawa O	消化器外科	Randomized study of the effect of synbiotics during neoadjuvant chemotherapy on adverse events in esophageal cancer patients	Clinical Nutrition				2015	11	○	英文
51	Ohue M.	Hamaguchi T, Ito Y, Sakai D, Noura S, Kinugasa Y, Fujita S, Shimada Y, Saito N, Moriya Y	消化器外科	A phase I trial of preoperative S-1 in combination with oxaliplatin and pelvic radiation for lower rectal cancer with T4 and lateral pelvic lymph node metastasis.	Int J Clin Oncol	20	2	338	2015	4	○	英文
52	Sakon M.	Maehara Y, Kobayashi T, Kobayashi H, Shimazui T, Seo N, Crawford B, Miyoshi I.	消化器外科	Economic Burden of Venous Thromboembolism in Patients Undergoing Major Abdominal Surgery	Value in Health Regional Issues	6		73	2015	5	○	英文
53	Sueda T	Ohue M, Noura S, Shingai T, Nakanishi K, Yano M	消化器外科	Prognostic significance of a preoperative magnetic resonance imaging assessment of the distance of mesorectal extension in clinical T3 lower rectal cancer.	Surg Today				2016	1	○	英文
54	Sugimura K	Fujiwara Y, Omori T, Motoori M, Miyoshi N, Akita H, Gotoh K, Kobayashi S, Takahashi H, Noura S, Ohue M, Yamamoto T, Sakon M, Yano M, Masaaki Motoori, Masahiko Yano, Ryu Ishihara, Noboru Hanaoka, Norikatsu Miyoshi,	消化器外科	Clinical importance of a transcription reverse-transcription concerted (TRC) diagnosis using peritoneal lavage fluids obtained pre- and post-lymphadenectomy from gastric cancer patients.	Surg Today				2015	8	○	英文
55	Sugimura K	Hirofumi Akita, Kunihito Goto, Shogo Kobayashi, Hidenori Takahashi, Takeshi Omori, Shingo Noura, Masayuki Ohue, Yoshivuki Fujiwara, Masato	消化器外科	Endoscopic steroid injection reduced frequency of repeat dilation in patients with anastomotic stenosis after esophagectomy	Esophagus	13	1	62	2016	1	○	英文

No.	著者	所属	題名	雑誌名	巻号	開始頁	終了頁	西暦	月	特定機能 病院 承認要件 対象論文	和文 or 英文
			共著者(複数の場合は、F、J F、Jで続ける)								
56	Yasui M	消化器外科	Comparison of bleeding risks related to venous thromboembolism prophylaxis in laparoscopic vs open colorectal cancer surgery: a multicenter study in Japanese patients.	Am J Surg	in press			2015	12	○	英文
57	Higashiyama M	呼吸器外科	Pulmonary metastasectomy: outcomes and issues according to the type of surgical resection.	Gen Thorac Cardiovasc Surg	63 6	320	330	2015	6	○	英文
58	Tokunaga T	呼吸器外科	Pleural recurrence after surgery for pleomorphic adenoma arising from peripheral lung: computed tomography- guided percutaneous needle biopsy as a possible mechanism of local failure	Gen Thorac Cardiovasc Surg	63 8	478	482	2015	8	○	英文
59	Ishitobi M	乳腺・内分泌外科	Association of human epidermal growth factor receptor 2 status with ipsilateral breast tumor recurrence and resistance to endocrine therapy.	Mol Clin Oncol.	3 4	843	846	2015	7	○	英文
60	Ishitobi M	乳腺・内分泌外科	Distant Recurrence Risk after Late Ipsilateral Breast Tumor Recurrence: Results of a Retrospective, Single-Institution One-step nucleic acid amplification assay (OSNA) for sentinel lymph node biopsy.	Oncology	accept			2016	1	○	英文
61	Tamaki Y	乳腺・内分泌外科	Development of non-tissue adherent neurosurgical patty and an ex vivo assay system for adherent characteristic evaluation.	Breast Cancer	22 3	230	234	2015	5	○	英文
62	Kinoshita M	脳神経外科	Comparison of diffusion tensor imaging and 11C-methionine positron emission tomography for reliable prediction of tumor cell density in gliomas.	J Neurosurg	## 5	1180	1184	2015	5	○	英文
63	Kinoshita M	脳神経外科	Diagnostic and prognostic value of 11C-methionine positron emission tomography for MR non-enhancing glioma.	J Neurosurg	in press					○	英文
64	Takano K	脳神経外科		AJNR Am J Neuroradiol	in press			2015		○	英文

No.	著者	共著者(抜数の場合は、「I、J」 I、Jで続ける)	所属	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	西暦	月	特定機能 病院 承認要件 対象論文	和文 or 英文
75	Ohira S	Ueda Y, Hashimoto M, Miyazaki M, Isono M, Kamikaseda H, Masaoka A, Takashina M, Koizumi M, Teshima T	放射線治療科	VMAT-SBRT planning based on an average intensity projection for lung tumors located in close proximity to the diaphragm: a phantom and clinical validity study	Journal of Radiation Research	57	1	91	97	2016	1	○	英文
76	Ohira S	Ueda Y, Nishiyama K, Miyazaki M, Isono M, Tsujii K, Takashina M, Koizumi M, Kawanabe K, Teshima T	放射線治療科	Couch height-based patient setup for abdominal radiation therapy	Medical Dosimetry	41	1	59	63	2016	2	○	英文
77	Otani K	Teshima T, Ito Y, Kawaguchi Y, Konishi K, Takahashi H, Ohigashi H, Oshima K, Araki N, Nishiyama K, Ishikawa O	放射線治療科	Risk factors for vertebral compression fractures in preoperative chemoradiotherapy with xencitabine for pancreatic cancer	Radiotherapy and Oncology	118	3	424	429	2016	3	○	英文
78	Ueda Y	Ohira S, Isono M, Miyazaki M, Teshima T	放射線治療科	Asymmetric margin setting at the cranial and caudal sides in respiratory gated and non-gated stereotactic body radiotherapy for lung cancer	BJR	89	1059	2E+07		2016	1	○	英文
79	Kawada N	Uehara H, Hosoki T, Takami M, Shiroeda H, Arisawa T, Tomita Y	病理 細胞診断科	Usefulness of dual phase 18F-FDG-PET/CT for diagnosing small pancreatic tumors.	Pancreas	44	4	655	659	2015	5	○	英文
80	Kawada N	Uehara H, Nagata S, Tsuchishima M, Tsutsumi M, Tominta Y	病理 細胞診断科	Imaging morphological changes of intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas was associated with its malignant transformation but not with development of pancreatic ductal Factors Affecting Recurrence of T1 and T2 Tongue Cancer Undergoing Intraoral Resection	Pancreatology	15	6	654	660	2015	11	○	英文
81	Mohri T	Tomita Y, Fujii T, Tomoeda M, Kotani S, Terada T, Saeke N, Uwa N, Sagawa K, Sakamoto T, Nakai K, Tanizawa M, Okabe T, Hoshikawa N, Kohatada M, Kitagawa F, Hanya R, Kotani M	病理 細胞診断科	A Questionnaire-based Assessment of the Anxiety, Satisfaction and Discomfort Experienced by Japanese Cancer Patients during the Use of Central Venous Ports	Otolaryngology	6	1			2016	2	○	英文
82	Yagi T	Kawabata K, Maruoka T, Asami R, Yoshikawa H, Takakura R, Ioka T, Katayama K, Tanaka S	外来化学療法科	New approach for local cancer treatment using pulsed high-intensity focused ultrasound and phase-change nanodroplets	Internal Medicine	accept						○	英文
83	Ashida R	Nakaya T, Ioka A, Nakayama T, Tsukuma H, Uehara S, Sato KK, Endo G, Hayashi T	検診部	Investigation of spatial clustering of biliary tract cancer incidence in Osaka, Japan: neighbourhood effect of a printing factory.	Journal of Medical Ultrasonics	e-pub				2015	5	○	英文
84	Ito Y	Inoue M, Ioka A, Ito Y, Tabuchi T, Miyashiro I, Masae H, Ishikawa J, Hirno M, Tsukuma H	がん予防情報センター	Comparison of survival of adolescents and young adults with hematologic malignancies in Osaka, Japan.	J Epidemiol	Epub ahead of print				2016	2	○	英文
85	Nakata-Yamad	Tabuchi T, Miyashiro I, Masae H, Ishikawa J, Hirno M, Tsukuma H	がん予防情報センター		Leuk Lymphoma	57	6	1342	1348	2015	12	○	英文

No.	著者	共著者(複数の場合は、「,」 「,」で結ぶ)	所属	題名	雑誌名	巻号	開始頁	終了頁	西暦	特定機能 病院 承認要件 対象論文	和文 or 英文
86	Tabuchi T	Ozaki K, Ioka A, Miyashiro I	がん予防情報センター	Joint and independent effect of alcohol and tobacco use on the risk of subsequent cancer incidence among cancer survivors: A cohort study using cancer registries	Int J Cancer	137 9	2114	2123	2015 5	○	英文
87	Tabuchi T	Kiyohara K, Hoshino T, Bekki K, Inaba Y, Kunugita N	がん予防情報センター	Awareness and use of electronic cigarettes and heat-not-burn tobacco products in Japan Tobacco price increase and smoking behavior changes in various subgroup: a nationwide longitudinal 7-year follow-up study among a middle-aged Japanese population Drug screening and grouping by sensitivity with a panel of primary cultured cancer spheroids derived from endometrial cancer	Addiction	111 4	706	713	2015 11	○	英文
88	Tabuchi T	Fujiwara T, Shinozaki T	がん予防情報センター		Tob Control	Epub ahead of print			2016 2	○	英文
89	Kiyohara Y	Yoshino K, Kubota S, Okuyama H, Endo H, Ueda Y, Kimura T, Kamiura S, Inoue M	生化学部門		Cancer Sci	(Epub)			2016 3	○	英文
90	Yoshida T	Okuyama H, Nakayama M, Endo H, Tomita Y, Nonomura N, Nishimura K, Inoue M	生化学部門			17 7	574	585	2015 :pub.	○	英文
91	Tanaka-Okamoto	Yabu M, Mukai M, Takahashi H, Fujiwara Y, Ohue M, Kameda Y, Miyoshi E, Miyamoto Y	分子生物学部門		J Proteome Res	15	152	165	2016 1	○	英文
92	Kukita Y	Matoba R, Uchida J, Hamakawa T, Doki Y, Imamura F, Kato K	疾患分子遺伝学部門		DNA Research	22 4	269	277	2015 8	○	英文
93	Takahashi K	Yoshidaya F, Hayashi N, Suzuki K, Akiyama F, Ishiyama M, Takahashi Y, Yoshida A, Yagata H, Nakamura S, Tsunoda H,	病態生理学部門		Surgical Case Report	1 121	1	5	2015 12	○	英文
94	Oka T	Morita H, Komuro I	精密健康診断科		J Mol Cell Cardio	92	46	51	2016 3	○	英文

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理審査委員会の目的や委員構成及び会議の開催要件、迅速審査、審査結果の報告手続きなどを定めている。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年4回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の定義、職員からの申告、利益相反委員会の運営、規則に違反した場合の措置などを定めている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容 ○平成27年9月29日実施「生物統計研究職による臨床研究相談について」「臨床研究体制の最近の動向と新臨床研究倫理指針」「研究費の不正使用、不正行為の防止について」 ○平成28年3月1日実施「COI及びCOIに係る最近の事例について」「副作用情報等の報告について」	

1 研修の内容

【研修について】

研修を行うにあたり、病院として提供しなければならないことは、「①問題に直面して学ぶ必要のある環境（つまり、多数の症例）、②自分や同僚、上級者から自由に学べる環境、③学んだことが直ちに行える、あるいは応用できる環境、④尊敬できる上級者がそばにいて、それを真似ることができる環境」と考えており、「勤務の中でごく自然に知識や技術が学習できる環境」づくりを心掛けている。

また、「知識や技術の学習」と同時に「問題解決能力」の養成も不可欠であるが、当センターは病院の性格上、診断や治療が困難な症例を診療する機会が多いことが特徴であり「問題解決能力」のトレーニングにも適していると考えている。

現在ではインフォームドコンセントに基づいた医療を行うことが必須である。これには知識や技術の他に、科学的思考に基づく情報（事実）の収集と分析、さらにその結果を論理的に説明できる能力が必要となる。これは医療安全だけでなく、長い臨床医としてのキャリアパスから考えても非常に重要なことと考えている。当センターでは日常臨床や学会発表の場を通じてこれらのスキルが十二分に習得できるプログラムを設定している。

【研修プログラム】

各診療科において、2年間の初期臨床研修を終了し、後期臨床研修を予定しているものを対象とするプログラムと、後期臨床研修中あるいは修了者またはそれに相当する学識を有する者を対象としたプログラムを作成している。

目的は、各診療分野での診療・研究を行う上で必要な高度な専門的知識と技術を習得するとともに、学会、論文発表などの学術面での研修を行うことである。

希望者には、臓器を絞ったコースの設定も行っている。

2 研修の実績

研修医の人数	33.8	人
--------	------	---

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
石原 立	消化管内科	主任部長	24年	
片山 和宏	肝胆膵内科	副院長	35年	
今村 文生	呼吸器内科	主任部長	32年	
矢野 雅彦	消化器外科	副院長	35年	
東山 聖彦	呼吸器外科	副院長	36年	
玉木 康博	乳腺・内分泌外科	副院長	35年	
和田 信	心療・緩和科	部長	24年	
荒木 信人	整形外科	主任部長	30年	
木下 学	脳神経外科	医長	16年	
上浦 祥司	婦人科	主任部長	33年	
藤井 隆	耳鼻咽喉科	主任部長	30年	
中西 克之	放射線診断科	主任部長	30年	
手島 昭樹	放射線治療科	主任部長	36年	
谷上 博信	麻酔科	主任部長	30年	
今村 文生	臨床腫瘍科	部長	32年	
富田 裕彦	病理・細胞診断科	主任部長	30年	
石川 淳	血液・化学療法科	主任部長	30年	
向井 幹夫	循環器内科	主任部長	32年	
山崎 知行	臨床検査科	主任部長	30年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

看護部、薬局、検査科等で研修を行っている。

例として

看護部でメンタルヘルス研修やコミュニケーション研修などを行っている。

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

各診療科、看護部、薬局、検査科などで、他の医療機関の医療従事者の研修や見学を行っている。
また国内だけでなく外国人の研修・見学の受け入れも行っている。

【一例】

① 緩和ケア研修会

平成27年7月4～5日 ドーンセンター 参加 35名

② 大阪府緩和ケアチーム研修会

平成28年2月6日 マイドームおおさか 参加 14チーム 42名

③ 大阪府在宅緩和ケア地域連携研修会

平成28年2月21日 大阪府立成人病センター 大講堂

参加 43名

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 左近 賢人
管理担当者氏名	総務・人事マネージャー 河村 徳次、経営改革マネージャー 田中 卓 薬局長 坂上 嘉浩、医療情報部長 松永 隆、 放射線診断科主任部長 中西 克之

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬局
		手術記録	中央手術室・病歴管理室
		看護記録	看護部
		検査所見記録	病歴管理室
		エックス線写真	放射線診断科
		紹介状	病歴管理室
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病歴管理室
			カルテ等病歴資料は、外来・入院別に一患者一カルテ方式として、一つのID番号により病歴管理室で集中管理を行っている。 エックス線写真は、放射線診断科で集中管理をしている。 その他、電子カルテシステムにもデータが保存されており、医療情報部が管理している。 【診療録の病院外への持ち出し】 診療録の病院外への持ち出しは認めていない。
病院の管理及び運営に関する諸記録	項 規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務・人事G
		高度の医療の提供の実績	医療情報部
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	臨床研究センター
		高度の医療の研修の実績	総務・人事G
		閲覧実績	医事G
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事G
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営改革G 薬局
	規則第一条の十一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部門
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部門	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部門	
			人事管理システムで保管 コンピューター管理他 年度毎にファイルに綴じて保管 年度毎にファイルに綴じて保管 年度毎にファイルに綴じて保管 地域連携情報をファイルに綴じて保管 診療情報をファイルに綴じて保管 調剤情報をファイルに綴じて保管 ファイルに綴じて保管 年度毎にファイルに綴じて保管 年度毎にファイルに綴じて保管

		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部門	年度毎にファイルに綴じて保管
--	--	--	----------	----------------

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染症センター ファイルに綴じて保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染症センター 年度毎にファイルに綴じて保管
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染症センター 年度毎にファイルに綴じて保管
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染症センター 年度毎にファイルに綴じて保管
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬局 ファイルに綴じて保管
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬局 年度毎にファイルに綴じて保管
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬局 年度毎にファイルに綴じて保管
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬局 年度毎にファイルに綴じて保管
		医療機器安全管理責任者の配置状況	泌尿器科部長室 年度毎にファイルに綴じて保管
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	C E 室 年度毎にファイルに綴じて保管
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	C E 室 年度毎にファイルに綴じて保管
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	C E 室 年度毎にファイルに綴じて保管

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門	ファイルに綴じて保管
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染症センター	ファイルに綴じて保管
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬局	ファイルに綴じて保管
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療情報部	ファイルに綴じて保管
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部	ファイルに綴じて保管
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部門	ファイルに綴じて保管
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	計画書提出済	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	計画書提出済	
		監査委員会の設置状況	計画書提出済	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部門	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	計画書提出済	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者総合相談室	ファイルに綴じて保管
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	計画書提出済	
		職員研修の実施状況	医療安全管理部門	
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	計画書提出済			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 左近 賢人	
閲覧担当者氏名	医療情報部主任部長 松永 隆 医事主査 阪本 泰敏	
閲覧の求めに応じる場所	(窓口) 医事グループ (閲覧場所) 医療情報部	
閲覧の手続の概要 医事グループあてに閲覧申請を行い、医療情報部で記録を確認し、医療情報部で閲覧する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： 医療安全管理体制、医療安全研修、インシデント報告、医療事故への適切な対応、医療従事者と患者の情報共有、高難度新規医療技術等を用いた医療の提供、監査委員会、特定機能病院間相互のピアレビュー、患者からの相談への対応、医療安全管理マニュアルの作成・更新、医療安全管理に関する指針の公開</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無) ・ 開催状況：年 14回 ・ 活動の主な内容： 医療事故調査委員会の設置。 医療事故・インシデント等が発生した場合の情報収集及び対応の検討。 重大な医療事故発生時の速やかな発生原因の分析・再発防止策の立案。 病院機構本部・日本医療機能評価機構等への報告。 医療安全管理マニュアル等の作成・更新。 医療安全に関する職員の教育及び研修の企画・運営・評価。 医薬品に係る安全管理、医療機器の保守点検・安全使用に関すること。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年25回
<p>・ 研修の主な内容： 全職員対象 ・ 第1回「医療安全、航空機危機安全管理の観点より」 ・ 第2回「暴力発生時の対応」「医療事故調査制度について」 ・ 第3回「私達の提供する医療が安全であるために」～一人一人が意識すること～ 新規採用者医療安全研修 5センター合同研修「医療コンフリクトマネジメント研修会」 「新規採用者BLS研修」「人工呼吸器・心電図モニター取扱い研修」 「医薬品安全研修」「ICLS研修」「病棟・外来クラーク研修」など</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 車いすからの移乗介助の動画を作成、研修会開催、閲覧環境の設置 CVポート留置患者に関するマニュアル作成、周知 院内死亡症例検討会の調査、死亡症例検討会依頼、 患者死亡時報告書の周知、医療安全マニュアル改訂 麻薬の配薬(患者確認)について 医療事故調査制度と医療事故初期対応要領の周知 造影剤の血管外漏出対応 関連部署での多職種によるM&Mカンファレンスの実施 CVカテーテル誤挿入防止に向けた研修 転倒予防DVD作成、周知</p>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容：院内感染防止に係る基本的な考え方、委員会等組織に関する基本的事項、職員研修に関する基本方針、院内感染報告制度、院内感染発生時の対応、指針の公開	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： 病院長の注意喚起 感染症およびその対策上の問題点に関する報告内容の検討 アウトブレイク発生状況の把握と対策の検討 予算有効活用への助言 感染対策の戦略に対する助言と確認 感染症センターへの助言と支援	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 11 回
・ 研修の主な内容： 標準予防策、針刺し予防策、個人防護具の使用法、手指衛生、インフルエンザに関すること、がん専門病院における感染症科の役割、腸内細菌の耐性化について	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	有・無
・ 病院における発生状況の報告等の整備 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 感染症ニュースレターの発行 院内ラウンド結果のフィードバック 所属ごとに感染対策推進担当者（リンクドクター、リンクナース）を任命し、現場から感染対策に関する情報や報告があがるようにしている。	

様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 : <ul style="list-style-type: none"> H27. 7. 7 糖尿病治療薬の注意点について H28. 10. 3 抗がん剤の曝露対策について 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有) ・ 業務の主な内容 : <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の採用、購入、管理 ・ 各部首への供給、管理、使用 ・ 医薬品情報の収集、管理、提供 ・ 医薬品の廃棄 ・ 管理の必要な薬剤のマニュアル (麻薬、血液製剤、持参薬、サリドマイド関連薬) 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) ・ その他の改善のための方策の主な内容 : <ul style="list-style-type: none"> 医薬品安全管理委員会の開催 (1 回 / 2 ヶ月) 医療安全管理委員会との連携 (1 回 / 月) 	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年7回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○新規導入医療機器については、使用予定者に対する研修を導入時に実施（随時）（H27年度実績5回）。○それとは別に、生命維持管理装置を中心とした、病棟やICUなどで使用頻度の高い機器の研修を実施（年7回）。○研修内容については、当該医療機器の有効性や安全性、使用方法、保守点検、トラブル対応などを含む	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)・ 保守点検の主な内容：<p>生命維持管理装置はもちろん、電気メスをはじめとする高エネルギー装置や、病棟使用頻度の高い輸液・シリンジポンプなどそれぞれの機器に合わせた点検方法を設定し、保守点検計画に則ったスケジュールにて実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<p>主に医薬品医療機器総合機構の供する同情報提供ホームページやメール配信サービスなどを利用し、併せて医療機器メーカーからの提供情報も収集して、該当機器については確認及び部署への連絡を実施している。</p><p>また、各団体や厚労省などの公的な通達についても、総務Gを通じて各部署に資料を送付し、必要に応じて医療機器安全部門からも再度周知している。</p>	

(様式第6)

規則第9条の23第1項第1号から第15号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理部門の副院長が医療安全管理責任者として配置、活動。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(1名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>DI担当者を中心に、各社MR、PMDA、MDバンク等からの情報を整理。</p> <p>院内掲示板、薬事ニュース等で周知。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>各種委員会の承認内容や届け出で情報を収集し、処方せんや電子カルテのコメント表示、病棟薬剤師からの報告等で対応する。</p> <p>・担当者の指名の有無(有・無)・・・有</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) 診療マニュアル 臨床倫理マニュアル</p> <p>・規程の主な内容：インフォームド・コンセントを得る際の注意、説明すべき項目、説明・同意文書</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・活動の主な内容：</p> <p>診療録等の適切な管理を行う。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有 <input checked="" type="radio"/> 無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従（１）名、専任（２）名、兼任（５）名 うち医師：専従（　）名、専任（１）名、兼任（５）名 うち薬剤師：専従（　）名、専任（１）名、兼任（０）名 うち看護師：専従（１）名、専任（　）名、兼任（　）名 ・計画書提出済み ・活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・インシデント報告書の分析、背景要因等の調査、再発防止策の検討、院内周知 ・医療安全に関する職員の教育、研修の企画、実施・評価 ・担当医療安全管理者（リスクマネージャー）会議を毎月１回開催、 ・医療安全部門会議を毎週１回程度開催 ・事故等に関する診療録や看護記録等の確認と指導 ・医療安全管理委員会等で用いられる資料及び議事録の作成と保存 ・院内の全死亡症例の検討、 ・医療安全管理マニュアルの改訂、 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無） ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無） ・規程の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 計画書提出済み 平成 29. 4. 1～施行予定 ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無） ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無） 	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無） ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無） ・規程の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 計画書提出済み 平成 29. 4. 1～施行予定 	

<ul style="list-style-type: none"> ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 <input checked="" type="radio"/> 無) ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 <input checked="" type="radio"/> 無)

⑨ 監査委員会の設置状況	有 <input checked="" type="radio"/> 無
--------------	--------------------------------------

<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 回 ・ 活動の主な内容： 計画書提出済み 平成 28 年 12 月 31 日までに施行予定 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有・無) ・ 委員名簿の公表の有無 (有・無) ・ 委員の選定理由の公表の有無 (有・無) ・ 公表の方法：
--

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況： 67 件 (H28. 4～H28. 8)
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 75 件 (H27 年度)
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容
- ・医療事故調査委員会の設置
- ・医療事故・インシデント等が発生した場合の情報収集及び対応の検討
- ・重大な医療事故発生時の速やかな発生原因の分析・再発防止策の立案
- ・病院機構本部・日本医療機能評価機構等への報告
- ・医療安全管理マニュアル等の作成・更新
- ・医療安全に関する職員の教育及び研修の企画・運営・評価
- ・医薬品に係る安全管理、医療機器の保守点検・安全使用に関すること
- ・医療安全管理部門から臨床経過を検討した死亡症例の報告を受ける

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り (有 (病院名：) 無)
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ (有 (病院名：) 無)
- ・技術的助言の実施状況
計画書提出済み H29. 4. 1～施行予定

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

患者相談支援室にて投書等があった場合、医療安全管理マニュアルに従い、必要に応じ医療安全管理部門に通知する。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (有・無)
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無 (有・無)

・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

計画書提出済み H29. 4. 1～施行予定 これまでも研修は年3回程度実施しているが承認要件の見直し内容や監査委員会からの意見をもとに研修において職員に周知する。

全職員対象

- ・第1回「医療安全、航空機危機安全管理の観点より」
- ・第2回「暴力発生時の対応」「医療事故調査制度について」
- ・第3回「私達の提供する医療が安全であるために」～一人一人が意識すること～

新規採用者医療安全研修 5センター合同研修「医療コンフリクトマネジメント研修会」

「新規採用者BLS研修」「人工呼吸器・心電図モニター取扱い研修」「医薬品安全研修」

「ICLS研修」「病棟・外来クラーク研修」「中心静脈カテーテル研修」

「中途採用者研修」 など

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

計画書提出済み H30. 4. 1～施行予定

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	Ⓐ・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価Ver. 6.0を認定を受けている。 認定日 2013年6月7日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	Ⓐ・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページを活用し、随時情報発信をしている。 地域医療連携室では、連携医療機関・健診機関等に向けて 1) 医師や診療科、医療連携等に関する情報等を掲載した医療連携冊子「診療のご案内」を年1回発行している。 2) 「地域医療連携室だより」として診療や医療連携に関する最新情報、講演会の開催案内などを行っている (年4回)。 3 「病診連携ネットワーク講演会」の開催案内・運営を年2回行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	Ⓐ・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・隣がんセンター、緩和ケアセンターの設置 ・栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、褥瘡ケアチーム などを組織し、複数の診療科が連携し、患者さんの対応に当たる体制をとっている。	

(様式第 8)

府 病 成 2999 号
平成 28 年 9 月 8 日

厚生労働大臣

殿

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
理事長 理事長 遠山 正彌

大阪府立成人病センターの医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

医療安全管理部門長の副院長を医療安全管理責任者として平成 28 年 10 月 1 日までに配置予定。

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

「医療安全管理マニュアル」の「医薬品安全管理責任者の役割」に「医薬品安全管理責任者の活動の充実するため内容」を追加し、平成 28 年 10 月 1 日までに施行する。
具体的な内容は、「医薬品の安全使用のための業務手順書」に記載する。

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

医療情報部長（医師）を責任者として平成 28 年 10 月 1 日までに配置予定。

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

既に診療マニュアルに「インフォームド・コンセント」に関する規定がある。

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

医療情報部長（医師）を責任者として平成 28 年 10 月 1 日までに配置予定。

6. 規則第 9 条の 23 第 1 項第 10 号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

院内死亡症例の報告システムは平成 27 年に「医療安全マニュアル」に追加し運用中。なお
レベル 3b 以上の事例の報告制度は以前から運用できている。

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

当センターが属する地方独立行政法人大阪府立病院機構が設置している「コンプライアンス通報・相談窓口」に「医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための通報窓口」の機能を追加し、平成 28 年 10 月 1 日までに職員や委託スタッフへ周知を行う。

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

近畿地区の公立特定機能病院グループ（6施設）が共同して統一した臨床指標を作成中であり、この指標に基づき例えば、手術時の血栓予防策実施率等の診療内容についてのモニタリングを平成29年4月1日までにを行う予定。
また、全職員対象の医療安全に関する研修の受講状況を確認し、効果測定の方法を現在検討中。平成29年4月1日までに従業者の医療の安全に関する意識の向上についてのモニタリングを行う予定。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

当センター内の既存組織である「中央手術室・ICU・HCU運営委員会」を高難度新規医療技術担当部門（仮称）とし、部門長に当該委員会の委員長（医師・副院長）を配置予定。年内の設置を計画している。評価委員会は既設の「研究リスク評価部会」を充てる予定。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

該当部門となる「中央手術室・ICU・HCU運営委員会」に関する規程と省令、施行規則との整合性を確認し、年内に作成予定。
評価委員会は院内の既存組織である「研究リスク評価部会」を充てる予定。

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

当センターの医療安全管理部門に「未承認新規医薬品等担当部門（仮称）」を設置し、医療安全管理部門員である医療機器安全責任者（医師・主任部長）を担当部門長として配置予定。
評価委員会は院内の既存組織である「医薬品採用部会」を充てる予定。
平成29年3月31日までに設置を計画している。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

「未承認新規医薬品等担当部門（仮称）」について年度内に規程を新たに作成する予定。

13. 監査委員会を設置するための予定措置

外部委員の人選を進めており、年内には委員会を設置予定。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

近畿地区内の特定機能病院の公立病院グループでペアを決め実施する計画。

15. 職員研修を実施するための予定措置

これまでも研修は年 3 回程度行っている。今後は承認要件の見直し内容や監査委員会からの意見などを研修において職員に周知する。

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

開催される研修の情報を集めて計画的に受講する。

平成 30 年 3 月 31 日までに順次、受講予定

17. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（1）名、専任（2）名、兼任（ ）名

うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名

うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

医師については平成 30 年 3 月末までは専任 1 名で、平成 30 年 4 月から平成 32 年 3 月の間は複数の専任を置き、平成 32 年 4 月からは専従 1 名を配置する予定。

薬剤師については平成 30 年 3 月末までは専任 1 名とし、平成 30 年 4 月から専従 1 名を配置する予定。